【写真は本人提供】

石原（いしはら）　昌一（しょういち）（芸術）

昭和１６年（１９４１年）５月２１日　生
（満８１歳）

石原氏は埼玉県川口市で生まれる。東京教育大学教育学部芸術学科を卒業後、東京都立足立聾学校美術教諭を経て、熊本大学教育学部に講師として着任。教育学部助教授、教授、教育学部長を歴任し、平成１９年熊本大学を退官した。退官後は、平成２４年まで崇城大学芸術学部美術科教授を務めた。

氏は、熊本大学教育学部で研究・教育に精励すると同時に、塑像制作に取り組んだ。その作品は、昭和４８年第３回日本彫刻会展覧会初出品初入選以降、昭和５９年第１６回日展及び昭和６０年第１７回日展特選、平成６年第７０回白日会展吉田賞受賞など、日本を代表する展覧会で高い評価を受けてきた。これらの実績から日展審査委員、日展評議員、更に改組・新日展審査委員を歴任し、現在名誉会員となっている。

氏が制作した彫像はその優れた芸術性から、県内各地に設置されている。具体的には、ＪＲ熊本駅前の「おてもやん」像、熊本市高橋公園の「横井小楠と維新群像」、牛深港の「ハイヤ像」、錦町の「丸目蔵人佐及び少年剣士像」、熊本大学の「小泉八雲」像、鞠智城跡の「温故創生之碑」など数多く、その作品は熊本の芸術的景観の醸成に大きく貢献している。また、２０１９年の世界女子ハンドボール熊本大会の優勝トロフィー制作など、その優れた造形力は彫塑界を超えた幅広い分野で発揮されている。

氏は大学美術教育の運営に関与するとともに、そのリーダーシップで熊本県美術協会会長、熊本県美術家連盟会長を務め、長く熊本の美術界を牽引してきた。更に熊本県文化協会においても目の不自由な人が造形物を鑑賞することを可能にする「手でみる造型展」の運営に実行委員長として携わり、全国的にも社会的意義の大きな美術展を長年にわたり継続・発展させてきた。

これらの功績から、平成２８年に地域文化功労者文部科学大臣賞を受賞、さらに令和２年には瑞宝中綬章（教育研究功労）を受章。また、熊本県文化懇話会賞、くまもと県民文化賞などを受賞した。

昭和５０年１０月～昭和６０年３月	熊本大学教育学部助教授
昭和６０年　４月～平成１９年３月	熊本大学教育学部教授
平成１９年３月	熊本大学定年退官、同大学名誉教授
平成２０年～平成２３年	熊本県文化協会副会長
平成２２年～平成２５年	熊本県美術協会会長
平成２５年～平成２６年、平成２８年～令和３年	熊本県美術家連盟会長